

## 創刊第10号記念 新シリーズ『楽・健・長』スタート！！



春風に桜舞い散る水面かな

伊藤 茂(中津川)

東京飯豊会が昭和63年・白川湖畔に植樹した桜は飯豊の里にしっかり根付き元気に咲き誇ってます

白川湖畔にて2011.5撮影/井上和雄 (黒沢)

### 会長あいさつ



東京飯豊会は昨年50周年となりその記念事業として総会に小白川神社“あばれ獅子舞”連中40名をお招きしました。

その勇壮な舞に参加者220人は故郷の思い出に馳せ、大喝采でした。また故郷飯豊町へ桜30本の苗木を寄贈し、11月に黒沢のスワン公園、白川湖岸、中村の天養寺観音の3カ所に植樹しました。

これに当たりましては168名の皆様に寄付金のご協力を戴き誠に有難う御座いました。

昨年は未曾有の東北大震災があり、被災地は大きな不幸に見舞われました。しかし全国民が手を差し延べ早い復興が実現できるように援助したこ

### 東京飯豊会会長 山口 弘二 (中津川)

とはすばらしい助け合いの精神です。会員の皆様におかれましても、困っていることがあったら皆でお互いに助け合って行きたいと念じております。

今回の51回・東京飯豊会総会のアトラクションは全国大会で連続優勝を達成し目覚ましい活躍をしている津軽三味線の“柴田3兄妹”を招いて盛大に執り行います。

この御兄妹は父親が飯豊町下屋地出身と私たちには縁の深い関係にあります。会員皆様もご存知の方も多いと思います。末永く応援も宜しくお願い致します。結びに会員の皆様方のご健康とご多幸をご祈念申し上げます。

# ふるさと だより From飯豊町

## 「にぎわい茶房」 町内協力店

昨年12月に3店舗で事業をスタートさせた「にぎわい茶房」は、今年度に入り、新たに13店舗が加わって、町内に広がりを見せています。

「にぎわい茶房」の目的は、誰もが気軽に立ち寄って町の話題を聞いたり話したりできる場を作ること。町が目指す「にぎわい再現」の取り組みの一つです。

参加しているのは町内の飲食店や小売店、民宿など。「にぎわ



にぎわい茶房でお茶を楽しむ子どもたち



中津川のにぎわいメニュー

無料のお茶と普段のメニューに一品加えた「にぎわいメニュー」を出して、おもてなしをしてもらいます。その運営には、利用者の実績に応じて、町から協力を支払う仕組みです。

成果として「お客さまとの会話が増えた」との声があります。香月・喫茶「木精」(椿)の味田美代子さんは、「にぎわい茶房を始めてからお客さまに声を掛けやすくなりました。『お茶でもどうですか』と声を掛け、この事業のことを説明しています。町外の方とは話が弾み、町の観光を紹介することもあります。」

また、菓子丸屋(萩生)の樋口文子さんは、「地域の人たちもお茶飲みに来店してください。子どもからお年寄りまで地域の情報を交換できるので、ありがたいですね」とにぎわい茶房に参加した効果を話します。にぎわい茶房が現代版の井戸端となるか。試みは始まったばかりです。

## 「中津川森と暮らしの学校」開校

旧中津川小学校小屋分校を再利用した「中津川森と暮らしの学校」が、6月に開校しました。

開校式では記念講演が行われ、演台に立った「樹木・環境ネットワーク」の澁澤寿一理事長はこう述べました。

「昭和35年は、日本人が大きく変わった節目。高度経済成長期を迎え、大人は子どもたちに高学歴と高収入こそが幸せな生き方と教えてきた。しかし、それが行き詰ってしまったのが今の日本の現状。生活は買うものではなく、つくっていくもの。それを学び直すなければならぬ」

「森と暮らしの学校」の目的はそこにあります。「お金に頼る以外の生きる方」の学び舎です。田畑で作物を育て、森から恵みをいただく、自然と共に生きる技を学ぼうというものです。

学校を運営するのは、NPO法人



「美しいやまがた森林活動支援センター」。同センター織田洋典理事長が校長を務めます。

小屋分校は平成6年度に休校。平成17年度にはついに廃校となり、思い出深い校舎を取り壊さず、末永く活用してもらおうことは、地元の人たちの願いでした。

同センターは、昨年度から会員や地元の人たちのボランティアを得て、外壁のペンキ塗りや内装の補修、清掃などをを行い、傷んでいた校舎を見事によみがえらせました。町でもグラウンドの整地などに協力しました。

「森と暮らしの学校」では、親子や高校生以上を対象に、「自然と共に生きる技」を伝承する講座を順次開催していく予定です。

「私は中津川の下屋地区出身。生まれ故郷への恩返しとして、この学校を拠点に山村の素晴らしさを広く伝え、中津川に一人でも多くの人が住んでもらえるように努力していきたい」。森の達人でもある81歳の織田校長は、抱負を話します。

## 里の秋

## 深瀬 忠次 (添川)



四季折々あるが秋が一番！！ いなご取り、栗拾い、稲刈り風景そして、美味しい味覚が数多く有ったので特に印象に残って居る。

休日は朝早くから稲刈り等の手伝いをする。

しかし、時には厭になり気乗りしない事も有った。

そんな時は周りの自然の物に目が移った。

それは“いなご取り”で、子どもには良い遊びで簡単に捕れると思っていたが逃げるのが早い！ 悪戦苦闘しているとお袋が「露の有るうちにユックリ手を動かして捕らなきゃだめだべー」と。子供なりに試行錯誤しているうちに慣れてきて良く捕れるように成った。それをお袋が佃煮にして、見た目はグロテスクだが食べると本当に美味かった。

別の日は河原に行って、「ぐみ」「ブドウ」「く



るみ」「あけび」等採って自然の味を満喫した。

栗拾いは特に風の強い日の朝は早起きして庭に落ちた栗の“いが”を足で割って実を採る。生栗は渋が有るので自分で作った“へら”で削って食べる、コリコリして甘みが有って美味かった。おやつ代わりに沢山食べると“あく”が強いのでよく吹き出物が出た。

また山に行ってはキノコ狩り等で、秋は本当に自然からの贈り物が沢山あって楽しい季節と今も思い出に残ってます。

夕方に成ると杭に干された稲束の間から見る景色、山々は色付いて夕日が山並に映え、又自分も赤く染まる。そして遠くから聞こえて来る汽笛の響き、絵にも描きたくなる様な本当にゆったりとした風景。

心に残る里の秋です・・・・・・



## 昔の田舎の思い出

## 今村 ひろ子 (高峰)



今から数十年前の事で“そら覚え”ですが実家の近所に炭鉱が有り、そこで働く方がたの集落も有りました。皆さん真っ黒になりながら一生懸命

働いて居られました。

今の時代では考えられませんが掘った石炭の運搬は馬車で運んで居たように記憶しています。商店も無



く魚や干物類などは行商人が自転車で売りに来ていました。冬は雪が沢山降ると通学出来ず、大人の方が隣の部落まで“かんじき”で雪を踏んで道を作ってくれました。今、思えば感謝の気持ちでいっぱい！！ そして本当に大変な時代でした。



## 獅子舞に魅せられて

## 志田 義雄 (椿)



笛と太鼓の音が聞こえてくると、夏休み中の子供たちが、母親から貰った小使いを大切に握り締め、神社に向かったものです。

獅子のそれぞれの舞いには意味がある訳ですが、子供である私達には判る筈もないが、鬚を生やした獅子が舞う姿を見ては、まるで生き物に接する様に思ったものです。

一年間、自分が守ってきた屋代を留守にし、人々が暮らす郷へ出向く訳だが、“神”として危険はないか一歩々々進む慎重さには頭が下がる思いです。

東京飯豊会総会でも、近年は椿地区、小白川地区の獅子舞をお招きして、ホテルの中では有ります

がああの獅子舞を再現して頂きましたが、会員の皆さんが口々に言われる事は、瞳を潤ませ“感動した”でした。

今年の夏にはあの“獅子舞”を見る為と両親への墓参りを兼ねて帰省してきました。

やはり、獅子との再会には嬉しくもあり、感動もしました。

孫たちが、元気で健やかに育ってくれるのを願って、獅子を怖がる孫をまえに『ご神心』を頂くのを楽しみにしております。



## ふるさとを離れて40年



昭和44年3月、18歳で飯豊町手ノ子を離れて40年が経ち私も還暦60歳に成りました。上京して上野駅に着いた時のあのホームシックは今でも思い出します。製造業・営業の仕事に就きそれが人生の最初のスタートでした。第二の仕事は機械警備、現在のシステムとは少し違い巡回して安全確認し異常の有無を点検する仕事でした。警備の中で大阪、松下電器（現在パナソニック）の創業者「松下幸之助氏」の身辺警護に携

## 安部 和男（手の子）

わった事は私の人生で最大の勉強に成りました。4年間勤め、その経験の中で人と人との関わり、会社間の流通関係を学びました。東京に戻り色々な仕事に就きましたが、現在は警備の仕事に携わって居ます。私が東京飯豊会を知ったのは約10年前に友人に誘われて参加の一回だけでした。内容も分からず懇親会での飲食の記憶です。

創立から50年の東京飯豊会は凄い年月だと思います。今後、私も飯豊会に出席して色々な活動をしたいと思います。宜しくお願い致します。

## 「東京いいで会」との出会い



十数年前、同級生から「中地区の獅子踊りが「東京いいで会」のアトラクションに出演する」との連絡がありました。獅子踊りも懐かしかったが、同級生と一杯酌みかわす事の方が楽しみで、東京近隣の同級生に声をかけ、確か上野池之端付近の獅子踊り連の宿泊先へ大挙押し掛け夜を徹して話に花を咲かせたのが、つい昨日の様に鮮明に記憶しております。その事がキッカケで「東京いいで会」の存在を初めて知りました。あれから何年経ったか、会場が池之端文化会館、東方会館、ラングウッドと移り毎年楽しみに参加しております。同級生、先輩、後輩、親戚、幼なじみなど、

## 嶋貫 正十三（中）

懐かしい人との出会いがありました。その間同級生3名が他界するという寂しい事もありました。一方子供のころ「中村原」で遊んだ幼なじみと50年ぶりの再会で当り前の事とは言え孫がいるのには驚きました。今では毎年の東京いいで会での再会と、年に1・2度の「同級生の集い」、「幼なじみ会」で近況報告、思い出話などで盛り上がります。「どぶろく」を飲みながら懐かしいふるさとのイベントを楽しみ最後にみんなで「ふるさと」を大合唱する事で心からリフレッシュできる「東京いいで会」の今後の益々のご発展と役員の皆さまのご苦勞に感謝を申し上げます。

## 競馬と私



×月×日、「あと五分でメ切ります。お早目に投票をお済ませ下さい」と女性アナウンスの心地よい声が聞こえて来る「投票」・・・。何とユニークな意味深い・・・言葉使いであろう。何度聴いても選挙のイメージを呼び起こす。選挙と馬券、何のつながりもない二つの言葉だが良く考えると興味深々な共通性がある事を発見した。それは信頼と言う点である。何故人間はそうまでしてギャンブルに走るのか、本命と言われる選挙で馬の気まぐれでレースを捨てたとしたら何万人の人が金を失う事になる。それでも昨今の競馬ブームである。これを支える客と馬の信頼関係が裏切られた時、

## 伊藤 茂(中津川)

精一杯戦ったのか疑問になる。国の政治を左右する代議士を選ぶのもギャンブルだ。その代議士がどんなレースをするか前以って解っていないで選挙をしていると思うと現在の日本政治を見て選ぶのに信頼と言う証がなければならぬ。レースは八百長をやれば永久追放処分だが政治家の大半は追及されない。私達役員は選挙で選ばれた理由ではないが飯豊会の為に尽す事で信頼を得ています。

私のひとり言より--



# 【楽・健・長】



## 「絵に魅せられて」

## 手塚 久雄 (萩生)



絵を描くのは幼年の頃から好きだった。現役時代、仕事と家庭に追われ趣味どころではなかったが、絵心だけは温めていた。仕事で海外へ行く機会も多く駐在の経験もしたが、特にヨーロッパは絵の歴史も深く仕事の合間を見ては、歴史ある美術館と中世の佇まいを偲ばせるレンガ造りの古い町並み巡りが楽しみで、いつかは絵にしたいと夢を抱いていた。帰国後はクラブを絵筆に持ち替えて、地域にあるいくつかの絵画クラブに入会、素晴らしい仲間達との出会いが励みとなり、絵三昧の日々が始まった。定年後は本格的に活動を開始、多種の展覧会・公募展に出品する過程で改めて美の奥深さに挫折を繰り返しながら県展・公募展等に入選する機会も得た。一方で飯豊町は雄大な自然に生まれ絵になる風土、特に白川ダム記念館に展示されている「飯豊の

原風景をたどる・斉藤千代夫絵画展」、を拝覧し故郷の心温まる描写力に大変感動しました。私も帰省の折機会を見て描いている、未筆の油彩画ですが「飯豊山」・「萩生のお祭り」、東京飯豊会を通し町に寄贈、町民センター「あーす」に展示頂いております。絵に魅せられ絵筆を手にしたのが十数年前、趣味で楽しく描くはずの絵、しかし現実には厳しく、飽くなき洗練と絶え間なき自己変革と対峙しながら絵筆に夢を託しています。今日も絵の具に塗れ、完成する事の無い絵をキャンバスに向って、孤軍奮闘している。いつの日か田舎で個展を開く夢を追いながら・・・写真は我が手作りの小さなアトリエです。



## 「趣味を社会貢献の一部として活かす」

## 佐原 芳弘 (小白川)



H17年48年間の勤めを定年で終わった時、暫らくはボーッとしていたが24年間住み慣れた川越市で殆ど地元の人との交流が少ない事に気が付いた。単身赴任や遠距離通勤が主な原因である。そこで手っ取り早く川越市のシルバー人材センターの会員になる事にした。直ぐに仕事はなかったが、たまたま会報に子供囲碁教室指導員募集の記事があり、自分の趣味が囲碁だったので早速応募し、指導員として今日に至っている。



自分が囲碁を覚えたのは20歳頃で、現役時代は3段になっていたと思う。趣味に免状は不必要なので、先輩の薦めによる初段の免状だけであった。ところが受講生の子供達から先生は何段かと質問され忸怩たる思いをしたことがある。そこで奮起一番、せめて碁会所でも五段で打てるよう目標を定め、自分の棋力アップに努めたのは68歳の時だった。さらに日本棋院の段位認定大会にも参加した。四段・五段と取得して、欲を

出して六段に挑戦した。幸い74歳の時取得でき、歳をとってもやれば出来ると感慨深いものがあった。さて、子供囲碁教室は、当時ヒカルの基ブームで受講生が集まったが、直ぐに授業時間数不足問題で衰頽した。そこで「シルバー囲碁教室」新設を提案実施し、市の広報に「初級コース」の募集記事を掲載したところ29名の応募があり、H17年9月の教室をスタートした。それから6年後のH23年9月、5期生16名を迎え入れて、4コース（中級A、中級B、初級、入門）60名の教室に発展した。60歳過ぎてから新たな趣味として囲碁を覚えようとする意欲ある人が少ない事に感激、中には80歳過ぎの方もいる。

指導員は5名であるが、シルバー人材センター傘下の組織とはいえ、囲碁教室は独立採算制の事業なので市の補助金も僅かで会員のボランティア（地域貢献）意識で働いている。

川越市は34万人の中都市なので、新規募集（定員20人）する度に受講生の定員割れに心配している。その分受講生を大事にして、公民館などの囲碁同好会で成長される事を願って今日も努力している。

## 「自然学習開校式に！！」

## 織田 英昭 (中津川)



2011年6月18～19日、関係者200余名（うち子供達20～30名）により小屋分校にて、中津川「森と暮らしの学校」の開校式に山口会長と共に参加して来ました。18日が開校式、19日は分散協力して分校内に井戸掘り、



近くの山に植林（ブナ、クヌギなど）の体験でした。この学校の目的なのかな～と思いました。私も植林は何十年ぶりでした。私達が未来の子供達に残す事を視野に入れ取り組んで行きたい。



これを期にふれあいの場が広がれば嬉しく思っております。

この学校の目的は何だ



## スキーは魔物



私は下半身に重傷を負って長野原の病院の堅いベッドに転がされていた。この部屋は寒く足の傷の痛みと寒さに耐えながら治療が始まるのを長い間待たされていた。昭和62年12月13日スキー指導員研修会が終わった午後2時前後のこと、つるつるになったアイスバーンの上で転倒、体は慣性で坂を下りゲレンデの端の土手にぶつかり止まった。起き上がろうとしたが、体がびくとも動かない。よく見ると左大腿部に、かなり太い根っこのある木が刺さっていた。助けを呼ぼうと思ったが脚は折り畳まれたまま、体の自由が全く効かない。思い切って木を抜くことにした。何があっても気を失わないように意識をしっかりとって、体を少しずつ後ろへ動かし引き抜いた。木の先端を見ると、切り口が25mm位あって斜めに切っており血がべっとり付いていた。幸いに出血は少なかった。下から仲間が心配して上がってきた。「山口さん血は止まったようです」白い雪は真っ赤に染まっていた。仲間がパト

ロールに連絡をとり、スノーボードに乗せられてセンターハウスへ到着。パトロール達は自家用車で運ぶか救急車を呼ぶかで相談している。私は「一刻も早く救急車を呼んでくれ」と叫んだ。長野原までの長い道のりを救急車に揺られ、道路の凹凸による衝撃で傷口が痛んだ。病院では先きに入っていた重症患者の治療がようやく済んで私の治療が始まった。

窓はすっかり暗くなっていた。整形外科の先生が助手に言っている言葉が聞こえてくる。「白い筋が二本見えているだろう、あれは動脈と神経管だから絶対に傷を付けないように注意しろ」と。開いた傷口に何本もの消毒薬がかけられ、飛び上がるほど痛みが走る中ようやく手術が終わった。「体をひっくり返して裏をきれいにしよう」その瞬間、「あれ、裏にも傷がある。これは貫通しているんだ」と医師が叫んだ。これで私の怪我は大腿部に木が貫通して、非常に運良く動脈と神経管の間を抜けたのだと分かった。木を抜いたあとき大腿部の痛みと下腹部に痛みを感じていた謎が解けたと思った。脚が強制的に深く曲げられ、木は脚を



貫通した後左脇腹で止まったようだ。本当に幸運だった。

年老いた威厳のある白髪の院長が「私は戦争中何人もの銃弾の貫通創を見てきているが、何年後かに化膿する人が多かった。傷の中に取り切れない破片が残っているからだ」と言った。翌日年長の婦長さんが私の所へ来て、「山口さんこの病院には整形外科の専属の先生は居ないので他に移った方がいいですよ」とこっそり言う。昨日手術をした医師はたまたま群馬大学医学部から派遣されていた。

私は車椅子で公衆電話に向かい。会社の診療所長に病院への入院依頼をし、翌日には病人搬送用タクシーで東京の日大病院に入院した。それから一週間強力な化膿止め点滴により、傷口はふさがっていった。しかし、私の体の中は大きな問題が起きていた。やがて悪寒、喉の痛み、咳など風邪の症状が現れ、医師の風邪薬の投薬では一向に改善しない。私がひどく咳き込んでいるとある看護婦が通りかかり「山口さん肝臓病患者に似ているね」との一言で私は直ぐピンときた。告げられた担当医は緊張した顔で自ら採血、検査の結果GPTが三桁の驚異的な数値。直ぐさま内科病棟へ移された。強い薬剤の連日投与によるアレルギー性肝炎だった。この肝炎が治るまで更に2週間要する事になった。こんなことがあって全治するまで1ヶ月もかかっていた。

重傷を負っても3ヶ月後にはスキーを履いて山頂に立っていた。その時一瞬のためらいがあったが滑り始めた。

それから25年間スキーは毎年30日以上滑り、この間スキー板はコンベンショナルからカービングスキーに変わり、年々トップ技術を習得して、今ではどんな斜面も思うように滑れる。また、多くの人に技術を伝達する使命も果たしている。国内はもとより海外オーストリア、ドイツ、カナダ等へスキーを持って1人で出かけた。現地の人と列車やゴンドラの中で会話を楽しみ、インターナショナルなスキーライフを享受している。白髪院長の一言で恐れていた傷口の化膿は無かった、今後もないだろうと思う。

### 企画部よりお知らせ

### ふるさと訪問バスツアー参加者募集!!!

東京飯豊会発足50周年記念行事として、町との絆を深め交流を図り贈呈した桜苗木の植樹確認、参加会員との親睦、ふるさと満喫の旅を企画しております。奮ってご参加下さい!!!

尚飯豊町の行事「黒べこ祭り」(6~7月頃)に参加予定の為、日程の最終確定は4月になります。

#### 1 費用

25,000円/人予定 (参加人数により若干の変動有り)

#### 2 行程

\* 第一日目 東京駅前8:00出発 福島にて昼食、さくらんぼ狩、桜苗木植樹確認(白川河畔)、宿泊先(フォレストいいで)&町との交流

\* 第二日目 宿泊先 道の駅、「黒べこ祭り」参加:飯豊牛肉のバーベキュー(昼食を兼ねる)、桜苗木植樹確認(スワンパーク)ほか、東京駅前着・解散20:00

#### 3 問い合わせ先

事務局長 志田 義雄 TEL 049-244-3940

企画部長 新野 孝司 TEL 045-481-4554

提供  
飯豊町



「最高顧問 舟山繁太郎氏を悼む」



東京飯豊会の創立メンバーで、ご存命最後の方でございました舟山繁太郎氏が、平成23年2月16日97才の長命を全うされご逝去されました。会発展に多大な貢献をなされた先輩のご逝去を会報9号谷本氏、10号舟山氏と続いて他界への旅立ちのご報告は、尊敬する先輩を失い悲しみを新たに致します。舟山氏の「厳父、古武士」のような面影を懐かしみながら、安らかな旅路とご冥福をお祈りし申し上げます。前号にも掲載されておりましたが、舟山氏は、故郷小白川地区（飯豊町町制施行前）より上京後、永年東京警視庁に勤務され、立派に勤め上げられました。途中軍隊の任務も果たされ、晩年には、栄誉の叙勲を授けられました。また、私人としてふるさと飯豊と町出身者を愛しみ、後輩に生き方をさしめ指示されました。会創立に至る当初より、永年に涉り実務的にも、その精神に於いてもバックボーンで在られ多数の幹部を育て、町全地区出身者の東京飯

高橋 正孝（中津川）

豊会への結集に努力されました。申しあげるまでも無く、ご逝去の日まで会発展の為に関心を持続され49回総会にもご令息に伴なはれ楽しいひと時を過ごされました。「次回の50周年記念総会が待ちどろしい」と述べておられました。が50周年記念総会のイベントとして生誕の地、小白川地区の「小白川神社の獅子舞」が奉納される日を2週間後に控え、永遠の別れの日が来てしまった事は、計画段階から実現まで舟山氏のお喜びのお姿を想いながら努力された、役員各位にも誠に心残りでありました。ご遺族の皆様にご心よりの哀悼の意を表します。そして永年にわたり格別のご協力に感謝申し上げます。



2010年11月21日 飯豊会50年の歴史をお伺いに舟山さん宅を訪問した時撮影

ありがとう 舟山さん



昭和35年頃でしたが、私達は舟山さんの呼び掛けで、飯豊町出身の数名が大塚駅近くのそば屋の二階に集まり親交を温めていました。そのうちに首都圏在住の方々に声を掛けて県人会をやってはどうかとなったのです。その頃新設された統合中学校の落成祝いに、大型テレビを寄贈したこと等から町との交流が活発になり、昭和37年舟山さんを幹事長として東京飯豊会が発足しました。私も長年同じ職場でお世話になり感謝の気持ちで役員を引き受けました。舟山さんは、戦時中は兵役、戦後の激動期には警視庁に勤務され、その間、飯豊会をはじめ郷里との交流に尽くされた方で、円満な人柄から職場はもとより、地域の行事にも奉仕されこの度97歳の天寿を全うされた方で、ここに改めて敬意を表するものであります。



樋口 昭二（萩生）

昨年3月6日の総会のアトラクションは、舟山さんの地元の小白川神社の獅子舞、舟山さんも此の日を楽しみにして居られた事と思います。舟山さんの愛郷精神を糧として今後もずっと東京飯豊会を盛り上げて行きたいものです。最後に舟山さんのご冥福を祈念してお礼の言辞に代えさせていただきます。



昭和35年7月 新宿・不二家にて

新会員

- 近野 亜由美 (添川)
- 山口 忠司 (添川)
- 藤本 オヒデ (高峰)
- 和田 清美 (高峰)
- 竹田 元雄 (手ノ子)
- 山川 昭蔵 (手ノ子)
- 安部 和男 (手ノ子)
- 小田 由美子 (中)
- 関口 厚子 (中)
- 竹田 正三 (黒沢)
- 船山 静雄 (小白川)
- 伊藤 洋子 (添川)
- 木村 みつ (添川)
- 後藤 怜三 (添川)
- 八島 康二 (萩生)

おくやみもうしあげます

事務局便り

今号より会員・移動状況をお知らせいたします。  
(2011年分)



創刊2003年発行



3号2005年発行



5号2007年発行



7号2009年発行



9号2011年発行

創刊号～2号  
広報部員  
・宮城 慶吾  
・手塚 久雄  
・渡部 志郎  
・齋藤ふみゑ



2号2004年発行



4号2006年発行



6号2008年発行



8号2010年発行

9号～  
広報部員  
・齋藤ふみゑ  
・深瀬 忠次  
・伊藤 茂  
・志田 義雄



初代広報部長 高橋正孝 (中津川)

第7代の木村武会長は就任後、その胸に温めていた「会報発行」の役割と意義について再三にわたり発言され熱意をもって実現に努力されました。「会報発行」を実現する為の新組織は広報部。部長のみの初代発行責任者として選任されました。木村会長の熱意の下、広報部以外にも原稿募集、編集作業、印刷業者との折衝など、協力を頂き第1号を発行する事が出来ました。表紙の写真は木村会長の篤い思いを汲み「故郷の風景」に決定しました。今、創刊号を手に取り1ページ毎に関わったメンバーの努力を思い出しております。あらためてそのご協力に感謝申し上げます。

まず。「この素人ポイ」ところが個性的で味があるなどとその評価にはとまどいました。創刊号、50周年イベント、10号発行と歴史を重ねている事に感慨深いものです。また、飯豊町から多岐にわたりご協力を戴いた事は町民の方々の好意に感謝申し上げます。5号からはアナログ世代から能力も熱意も充実したデジタル世代に受け継いで頂き、号を重ねるごと斬新なそして充実した「会報」を手にするたびに、次号が待ち遠しい思いです。今後も故郷との交流、会員相互の親睦等、会発展の為「会報誌」の役割は大きくなります。広報部各位のご健勝を願うものです。

第二代広報部長 新野 孝司 (添川)



絆を受けて次へ託す

前高橋会長から、担当責任者として4号(平成18年4月)から携わって欲しい旨依頼がありました。広報誌作りに門外漢の小生は固辞したものの、従前から携わって来られた高橋広報部長、志田事務局長と宮城、井上、齋藤、深瀬の協力のもとでお受け致しました。

す。毎度の楽しみであった反省会。また、裏方の上記負荷を軽減すべく、役員会のご承諾を得、ノートパソコン及び編集機能を持つソフト：パブリッシャーの購入が出来たことで今も威力を発揮しています。

手にされた会報は和やかな交流の喜びと共に東京飯豊会の会員・ふるさと飯豊町との

役員皆様の多大なご協力で原稿は集まったものの、印刷業者にはその都度、ご苦勞をお掛けしました。

絆がいつまでも続く縁となり、いつでも大事にされる記念誌となることを念願致しております。

思い出は紙面の割り付け、原稿の長短、責任校正による一字一句、句読点の手直しなど戸惑いながら、より良い紙面へと悪戦苦闘をしたことで

発足50周年記念号9号(平成23年3月)から井上広報部長のもとで作成され、いつまでも継続されていくことでしょう。

第三代広報部長 井上 和雄 (黒沢)



歴代広報部長の後を受け、歴史ある東京飯豊会の広報誌発行を私が出来るのか?と心配しましたが関係者皆様のご協力で9号、今10号と発行することが出来ました。会員皆様、飯豊町の皆様、関係する皆様のご支援

に感謝申し上げます。これから、関係するあらゆる人達に読んで頂けるよう“守・破・離”をモットーに「この素人ポイ」紙面づくりに努力したいと思っております。今後ともご支援の程宜しくお願い致します。

## 第50回東京飯豊会総会・懇親会盛大に挙行政

3月6日(日)日暮里「ホテル・ラングウッド」にて会員様、県会議員の小池様、後藤町長、菅野町議会議長、他議員の方々、町行政関係者、JAおきたま飯豊支店、町産業経済懇話会の皆様、友好交流団体の川西会、致芳会、花回廊ようざんロードを作る会の皆様をお招きし総勢250名余の参加で開催されました。第一部の総会は山口会長の50周年を迎える事が出来たお礼の挨拶に続き、会務報告・会計報告・会計監査と議事が進行。来賓の挨拶は後藤町長より50周年記念総会開催へのご祝辞を頂き、昨年は町始まって以来初の熊対策、豪雪対策に苦慮された中でも新潟から「トキ」の飛来が確認された嬉しいお話が有りました。

た。第二部は菅野町議会議長の町特産“どぶろく”での乾杯で始まり続いて小池県会議員より“ふるさとのなまり”で“ふるさとの情報交換”の場所としての50周年総会開催へのご祝辞を頂きました。50周年記念イベントは「小白川神社」の獅子舞、総勢40名での披露。会場一杯のお腹に響き渡る太鼓の音、笛の音。しばし故郷のお祭り気分を満喫でした。その後は悲喜こもごもの抽選会と進み最後全員で「ふるさと」の大合唱!! 町から長沼議員、当会から国分副会長の万歳三唱でお開きと成りました。別れがたい思いの中、来年の再会の約束を交わしながら帰途に着かれました。(齋藤 ふみゑ 記)

# 祝 第50回 東京飯豊会 総会



山口会長挨拶



後藤飯豊町長挨拶



桜苗木の寄贈式



「ごしんじん!」



町長賞おめでとう!!



名前おしえておごえー



さ、さあ一杯上がっておごえな〜



花あげんべ〜こっち向けー



賞品「つや姫」なり〜



会長賞! 何だべ〜?



おしなすよう



50周年記念 紅白餅



小白川獅子連



うさぎお〜いしかの山〜♪♪

# 平成23年度 年会費納入者御芳名 (敬称略)

2011/12/31現在

会員様223名の方々に年会費を納入頂き会の運営・維持並びに会報の発行が出来ました。  
有難う御座いました。

[黒沢]		梅津勝美	蒲谷春夫	菅野由佳	小林秀	佐藤善吉	佐藤忠志	島貫富栄	長沼モエ
	12	中根友利子	原田洋子	平山くに	渡部忠雄				
[小白川]		安部春次	飯田孝子	石島サダ	岩崎俊男	上田隆	小野幸一	片岡豊子	菊地守
	20	佐原芳弘	平君代	高橋八郎	田辺俊彦	為藤よしゑ	千葉マサヨ	二瓶武司	羽深知子
		舟山清次	舟山睦男	舟山吉次	渡部金次郎				
[添川松原]		芦川裕子	安部正良	伊藤憲子	井上秀雄	宇田京子	梅津勲	遠藤一夫	遠藤清
	27	岡安弘子	小関こう	勝見俊秀	金原ちゑ子	小松勇吉	斉藤勝	佐藤よね子	山水まさ
		志田俊作	島田四郎	庄子良子	高橋はま子	田中とし子	新野善行	二瓶文夫	早野礼子
		村田忠一	森博子	山口紘紀					
[高峰]		伊藤正光	井上庄栄	井上名七	川口茂雄	小関恭雄	佐藤剛	鈴木清子	高橋隆夫
	12	高橋正弘	林洋子	本間元	山本エイ子				
[椿]		青木典子	安部貞夫	伊藤薫男	井上博司	上原三男	太田千代子	大富博	岡文子
	24	岡本輝子	香川法子	川嶋トシ子	片野英子	菅野栄三	北原重行	小林まち	高橋叔子
		高橋弘子	手塚みよし	永井みどり	長沼憲子	新野豊明	船山健次	松山倉夫	松山清次
[手ノ子]		池田典子	今原幸子	大野シズエ	奥山俊昭	奥山保弘	小池喜美恵	佐村孝作	佐山次夫
	19	島田源三	鈴木久志	鈴木三男	竹田仁太郎	竹田輝夫	田中かつ子	舟山清成	舟山好一
		舟山繁勝	横山ユウ子	渡部昭雄					
[中]		青木道子	青木しげ子	朝倉重美	朝倉建	位下和子	小黒八重子	菅野義徳	木村幸子
	25	工藤コウ	篠原五郎次	島貫正十三	嶋貫浩	島貫日出子	鈴木昭作	田所昌子	長岡信司
		長岡俊昭	新留静子	錦織明美	野原致子	福島ヨ子	船山吉治	峯田有一	村上栄一
		若林敬一							
[中津川]		伊藤公八	井上啓助	井上二六	井上与一	後藤篤志	後藤昭輔	鈴木政次	鈴木芳助
	17	鈴木萬	高橋幸雄	星野信助	丸山光雄	峯岸浩夫	山口哲男	山口和吉	横山建司
		渡邊晶子							
[菘生]		浅間朝子	五十嵐ヨ子	伊澤静子	伊藤光栄	伊東武義	浮谷栄子	宇津木秀三	梅津文蔵
	32	海老沢真砂子	岡野芳子	小野寺瑠璃子	加藤功	嘉藤秀一	菅利夫	木村清	後藤昭雄
		後藤定夫	後藤節子	桜井登美子	佐藤豊子	高橋勝治	高橋茂夫	高橋みつ	滝浪とも
		谷口秀子	手塚太	樋口孝	森田希世	山田正子	渡部新吾	渡部とく	渡部博士
[役員]		池田さだ	伊藤茂	井上和雄	今村ひろ子	小笠原辰男	小川悦男	織田英昭	川合かよ子
	35	川村博	国分秀高	斉藤ふみゑ	佐藤包子	佐原利博	志田幸次	志田義雄	鈴木伊勢夫
		高橋正孝	土田正一	手塚敏浩	手塚久雄	中澤サタ	長沼清	中村美寿	新野孝司
		二瓶孝徳	樋口昭二	深瀬忠次	宮城慶吾	八鍬勝夫	山口弘二	山口美恵子	横山忠雄
		吉田キヨ	渡部志郎	渡部隆					

さくら苗木植樹協賛者へのお礼の言葉

東京飯豊会 会長 山口 弘二

昨年、東京飯豊会発足50周年記念事業の一つとして、「町に桜木を寄贈し、将来に渡り絆を深めよう」と皆様に寄付金をお願いしてきました。お陰さまで347,500円(168名)をお寄せ下さいました。厚く感謝申し上げます。総会当日、後藤飯豊町長に目録(桜木30本)を贈呈致しました。

その後、場所(スワンパーク、白川河畔、天養寺観音堂)を選定の上、11月には植樹を終えました。4月末には町と「花回廊よーざんろーど」をつくる会様主催の植樹祭が予定されております。6月末には「ふるさと訪問ツアー」行程の中で植樹場所・記念碑建立地を訪れる計画です。寄付金の使途については改めて特別会計報告を行います。重ねて御礼の言葉と致します。

さくら苗木植樹協賛者ご芳名一覧

敬称略/地区・ご芳名は五十音順

<b>30,000円</b>		<b>3,000円</b>		<b>1,000円</b>		<b>1,000円</b>		<b>1,000円</b>	
渡部博士	萩生	長岡俊昭	中	菅野由佳	黒沢	山口ヒロ紀	添川	川村博	中
<b>15,000円</b>		村上栄一	中	小林秀	黒沢	山水まさ	添川	木村幸子	中
山口弘二	中津川	渡部志郎	中	手塚敏浩	黒沢	今村ひろ子	高峯	島貫日出子	中
<b>10,000円</b>		井上与一	中津川	長沼モエ	黒沢	小関恭雄	高峯	鈴木昭作	中
金原ちよ子	添川	扇田雪子	中津川	中根友利子	黒沢	鈴木清子	高峯	田所昌子	中
島田源三	手ノ子	横山建司	中津川	平山くに	黒沢	高橋正弘	高峯	長岡信司	中
<b>8,500円</b>		嘉藤秀一	萩生	渡部隆	黒沢	吉田キヌヨ	高峯	錦織明美	中
舟山睦男	小白川	手塚久雄	萩生	渡部忠雄	黒沢	安部貞夫	椿	野原致子	中
<b>8,000円</b>		<b>2,000円</b>		安部春次	小白川	井上博司	椿	福島ミヨ子	中
小笠原辰男	小白川	原田洋子	黒沢	飯田孝子	小白川	上原ハルヨ	椿	船山吉治	中
<b>6,000円</b>		田邊俊彦	小白川	石島サダ	小白川	上原三男	椿	若林敬一	中
土田正一	椿	千葉マサヨ	小白川	上田隆	小白川	岡文子	椿	井上啓助	中津川
<b>5,000円</b>		舟山茂文	小白川	菊地守	小白川	岡本輝子	椿	井上二六	中津川
為藤よしゑ	小白川	勝見俊秀	添川	佐原芳弘	小白川	香川法子	椿	高橋幸雄	中津川
庄子良子	添川	島田四郎	添川	鈴木伊勢夫	小白川	川嶋トシ子	椿	星野信助	中津川
高橋はま子	添川	中村美寿	添川	平君代	小白川	菅野栄三	椿	峯岸浩夫	中津川
新留静子	中	二瓶文夫	添川	高橋八郎	小白川	北原重行	椿	宮城慶吾	中津川
伊藤茂	中津川	舟山勝良	添川	二瓶武司	小白川	志田幸次	椿	山口哲男	中津川
鈴木萬	中津川	村田忠一	添川	羽深知子	小白川	高橋叔子	椿	五十嵐ヨシ子	萩生
高橋正孝	中津川	井上庄栄	高峯	芦川裕子	添川	高橋弘子	椿	井澤静子	萩生
<b>4,000円</b>		高橋隆夫	高峯	安部正良	添川	新野豊明	椿	伊藤光栄	萩生
小野寺瑠璃子	萩生	林洋子	高峯	伊藤憲子	添川	船山健次	椿	海老沢真砂子	萩生
<b>3,000円</b>		本間元	高峯	井上秀雄	添川	松山清次	椿	岡野芳子	萩生
井上和雄	黒沢	青木典子	椿	宇田京子	添川	大野シズエ	手ノ子	木村清	萩生
佐藤善吉	黒沢	片野英子	椿	梅津勲	添川	奥山保弘	手ノ子	後藤定夫	萩生
佐原利博	小白川	中沢サタ	椿	遠藤清	添川	川合かよ子	手ノ子	後藤節子	萩生
新野孝司	添川	長沼憲子	椿	遠藤一夫	添川	小池喜美恵	手ノ子	高橋勝治	萩生
安部喜昭	椿	佐村孝作	手ノ子	岡安弘子	添川	齊藤ふみゑ	手ノ子	高橋茂夫	萩生
太田千代子	椿	嶋貫浩	中	佐藤包子	添川	佐山次夫	手ノ子	高橋みつ	萩生
大富博	椿	峯田有一	中	佐藤よね子	添川	竹田輝夫	手ノ子	滝浪とも	萩生
小川悦男	椿	織田英明	中津川	志田俊作	添川	長沼清	手ノ子	谷口秀子	萩生
志田義雄	椿	後藤篤志	中津川	田中とし子	添川	舟山繁勝	手ノ子	森田希世	萩生
手塚みよし	椿	渡邊晶子	中津川	新野善行	添川	横山忠雄	手ノ子	山田正子	萩生
松山倉夫	椿	国分秀高	萩生	早野礼子	添川	渡部昭雄	手ノ子	渡部とく	萩生
奥山俊昭	手ノ子	山口美恵子	萩生	深瀬忠次	添川	朝倉健	中	協賛金合計	
横山ユウ子	手ノ子			森博子	添川	朝倉重美	中	347,500円	



墓石・灯籠・記念碑設計施工

〒999-0602 山形県西置賜郡飯豊町萩生 4536-1

株式会社 **国分石材**

Tel 0238-72-3738 Fax 0238-72-3753

国分石材ホームページ <http://www.kokubunsekizai.com>

飯豊町情報満載! → **TOYOTA運営 Gazoomura(ガズームラ)** **ガズームラで検索してみてください!!**  
飯豊町担当「石屋のおっか」ブログ 日々更新中

皆さんのふる里から

# 飯豊米

お届けいたします



お問い合わせは 添川の

**(有) 銀波**

代表 新野純一

TEL 0238-74-2147

FAX 0238-74-2031

eメール [ginnami@beige.plala.or.jp](mailto:ginnami@beige.plala.or.jp)

# ぶどうの里の ワイナリー “大浦ぶどう酒”

山形県随一のぶどうの産地南陽で、1939年からワイン造りに励んでいる「大浦ぶどう酒」。代表銘柄の「山形ワイン」は赤、白、ロゼ3種類とも山形土産として人気があります。こだわりの本格樽熟成ワイン「バレルエージング」はワイン好きの方におすすめ。ワイン蔵を改装した団体用のゲストホール（30名まで収容）も完備。南陽にお越しの際は、ぜひ大浦ぶどう酒の味をお楽しみ下さい。

**山形ワイン(赤、白、ロゼ) 各1,071円**  
**バレルエージング (ブラン、ルージュ) 各3,266円**



## 有限会社 大浦ぶどう酒

山形県南陽市赤湯312

**TEL.0238-43-2056**

<http://www.yamagatawine.com>

営業時間 ■ 9:00~18:00 無休(不定休あり)

※見学は要予約(無料)



JR赤湯駅下車徒歩15分、車で3分。国道113号線沿い

つくり手の想いを  
届けます、...

# 生産者の顔見える米

マルシチ米穀株式会社

〒999-0602

山形県西置賜郡飯豊町大字萩生3587

電話：0238-72-2016 FAX：0238-72-2807



写真：マルシチ米穀直営店 米と自然の探遊館

# おかげさまで**15周年**



観 光 物 産 館  
MEZAMI

## 道の駅いで めざみの里 観光物産館

飯豊町松原

1898番地

電話番号 0238

86 - 3939

# 地元肉専門の店



飯豊牛・白川漬・馬肉・さくら肉

## (有)肉のすがい

飯豊町添川3176-5  
TEL0238(74)2212  
FAX0238(74)2262



# いいで“Fun” Club ただ今、会員募集中!!

いいで“Fun” Clubには2コースがあります。詳しくは  
下記事務局までお問い合わせ下さい。

★ トクトク情報コース 年会費 1,000円

★ 特選旬の味覚コース 年会費 3,000円



お問い合わせ

いいで“Fun” Club 事務局（飯豊町観光協会内）  
〒999-0604  
山形県西置賜郡飯豊町大字椿 1974-2  
TEL: 0238-86-2411 / Fax: 0238-86-2422  
mail: fun@iikanjini.com  
URL: <http://www.iikanjini.com/fun/>



## 総合燃料業 株式会社 梅津商店



萩生本店  
☎023872-2155

ENEOS 椿店  
☎023872-3109

ENEOS 添川店  
☎023872-2622



# がまの湯

山形県いで湯と味覚の宿

静かな山あいの中にたたくがまの湯  
飯豊山、四季の美しさを奏でる中、  
心安らぐまごころの宿いで旅館  
湯・味・宴、それぞれの趣を存分に…



山形県 いで湯と味覚の宿 東北のガマ がまの湯温泉

**いで旅館**

〒999-0604 山形県西置賜郡飯豊町大字椿4494  
**TEL.0238-72-3706(代)**  
 FAX. 0238-72-3709  
 URL <http://www.gamanoyu.jp>  
 E-mail [info@gamanoyu.jp](mailto:info@gamanoyu.jp)



# いで どんでん平ゆり園



**開園時間**  
6/上旬～7/下旬  
9:00～17:00

**入園料**  
大人 600円  
小人 200円 (小中学生)

# 「中津川」 四季折々の楽しみ

## 【新緑の景観】

4月中旬～5月中旬



## 【山菜】

5月下旬～6月



## 【川遊び・昆虫】

7月～8月



## 【紅葉景観】

10月中旬～11月上旬



## 【雪景色】

12月～2月



## 【どぶろく】

11月下旬～4月



## 白川温泉 白川荘

999-0424

山形県西置賜郡飯豊町数馬218-1

お電話 0238-77-2124

ファックス 0238-77-2125



999-0424

山形県西置賜郡飯豊町大字須郷421-1

お電話 0238-78-0010

ファックス 0238-78-0020

未来へのおくりもの…

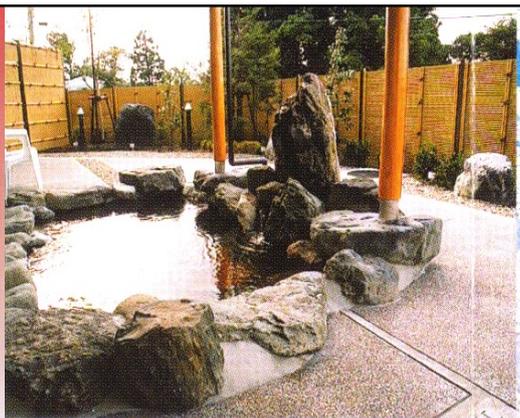


お米はここまで美味しくなれる。  
山形から、日本の新品種  
ご飯の大好きなあなたへお届けします。

山形おきたま農業協同組合飯豊支店  
山形県西置賜郡飯豊町大字萩生528  
TEL0238-72-2121 FAX0238-72-2010

あだまりの宿

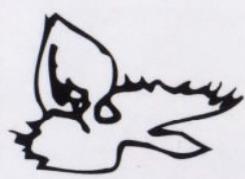
みどりの中で健康づくりを。



露天風呂



宴会場



いいで 添川温泉

しらさぎ荘

〒999-0605

山形県西置賜郡飯豊町大字添川3020-5

電話 (0238)74-2161

FAX (0238)74-2162





農家レストラン  
↓イルベキ

〒999-0602 山形県西置賜郡飯豊町萩生 3549-1

TEL 0238-86-2830 Fax 0238-86-2830

営業時間 AM11:00～PM3:00(ラストオーダー PM2:30)

PM5:00～PM9:00(ラストオーダー PM8:00)

造園・土木・設計施工・庭園管理

産業廃棄物収集運搬・大型クレーン作業一式

# 株式会社 伊藤造園士ホ

〒999-0604

どんな困難な

立木でも

伐採から運搬

廃棄処分まで

山形県西置賜郡飯豊町大字椿 2529-12

TEL 0238-72-3935

FAX 0238-72-2093

<http://www.ito-zouendoboku.com/>

相談・現場下見  
見積無料！

山形県知事（特-21）第600368号

山形県知事（般-21）第600368号

産業廃棄物収集運搬許可番号132304

# ふるさと情報コーナー



<http://www.town.iide.yamagata.jp>

飯豊町役場のホームページがリニューアルされました！ ライブカメラを覗くとそこに居るように四季の移り変わりが見られます。一度ホームページを開いてみて下さ〜い。



ボランティア活動!!!  
 “東北を支援しよう”旅行会社が東北買物バスツアーを企画したら大変な人気ようです！会員の皆様！東北経済復興の一助に食卓にアスパラ1本でも載せましょう！  
 まずは飯豊町商店街からスタート!!!



＝東日本大震災時の飯豊町の対応について＝

原子力発電所の事故を受け、福島県から多くの方が飯豊町へ避難されました。3月15日、山形県は少年自然の家（添川）で避難者の受け入れを開始。町でも翌日16日に東部地区公民館（添川）、白樺地区公民館（椿）に町営の避難所を設営しました。多い時で360名以上の方が、町営避難所のほか、旅館やアパート、お寺などにも避難し、生活を送られました。

町では、避難者の生活が安定するまでの間、救援物資や温泉施設の特別入浴券の配布、健康調査、介護保険サービスの斡旋、就職相談、子どもの就学相談などを実施し、避難された方の状況に即した支援に努めてきました。また、避難所となっている公民館の調理室を開放し、避難者の方々が自由に炊事できるようにしました。その結果、避難者同士が協力し合って食事を作るなど、コミュニケーションが深まることにつながりました。

最後に特筆すべきことは、町民の皆さんによる自主的な支援活動が、避難者の人たちの大きな励みとなり、感謝されたことです。例えば東部地区では、各地区の部落長さんが先頭に立ち、毎日の生活に欠かせない食料を各部落が輪番制をとって、避難所の東部地区公民館に届ける活動を行いました。そのほかにも多くの個人や団体、法人の皆さんが技術や特技を生かし、炊き出しや理容、マッサージ、生活物資の提供などさまざまな支援の輪が広がりました。飯豊町民の温かさに触れ、避難者の方から多くの感謝の言葉が寄せられました。

避難者の多くは別の場所で仕事を探し、生活の拠点を移すなどし、9月30日現在の町内の避難者数は71人にまで減少しました。

＝飯豊町より震災時の対応をご報告頂きました＝

## 広報部からのお願い

次号に向け、会員の皆様からの原稿、新シリーズ『楽・健・長』の生きがい、楽しみ、又ふるさとの思い出、同級会案内、日常の出来事、弊会や町の思い出の写真、短歌・俳句、ふるさと情報など何でも（600字程度）を下記までお寄せ下さい。

広報部長 井上 和雄  
 TEL&FAX: 042-551-0222  
 〒190-1214 東京都瑞穂町むさし野 2-3 7-5  
 e-Mail inouekhs@ybb.ne.jp  
 事務局長 志田 義雄  
 TEL: 049-244-3940  
 〒350-1136 川越市下新河岸 6 9-6 6

## 編集後記

＊『ままへ。いきてるといいね おげんきですか』  
 昨年の東日本大震災で両親と妹を亡くした4歳の女の子が書いたママへの手紙（読売新聞・掲載）を読み、胸に迫り涙溢れる想い、何とかして上げなくてはとの思いが、身を・心を動かし“絆”を強くした一年でした。 今年は楽しい年にしたいものです！  
 ＊新シリーズ『楽・健・長』スタート!!  
 これからの人生、**楽しく・健康で・長生きしよう!!!**  
 との想いを込め、『らっけんちょう』としました。人それぞれの人生。努力、精進され、今を楽しまれています。投稿者、読者皆様方の今後益々楽しくご活躍される事をお祈りいたします。（井上記）  
 編集：齋藤、深瀬、伊藤、志田、井上